

令和3年度 第2回 貸出文庫新着案内
 予約受付開始：令和4年3月15日（火）午前9時から

書名	著者	出版者（出版年）	ページ数 / 1ページの行数×文字数
姉の島	村田 喜代子	朝日新聞出版（2021.6）	242p / 17行×43文字程度
		85歳の年寄り海女と本土の水産学校を卒業した孫との、島の、海のものごたがり。天皇海山列、春の七草海山、海底に突き刺さる潜水艦…。円熟した作家の長編小説。 【第49回泉鏡花文学賞受賞】	
海をあげる	上間 陽子	筑摩書房（2020.10）	251p / 15行×38文字程度
		「海が赤くにごった日から、私は言葉を失った」。痛みを抱えて生きるとは、こういうことなのか。言葉に表せない苦しみを聞きとるには、こんなにも力があるのか。身体に残った言葉を聞きとるようにして書かれた、初めてのエッセイ集。 【本屋大賞 2021年ノンフィクション本大賞受賞】	
貝に続く場所にて	石沢 麻依	講談社（2021.7）	151p / 17行×40文字程度
		第165回芥川賞候補作。ドイツに暮らす私の元に、震災で行方不明になったはずの友人が現れる。人を隔てる距離と時間を言葉で埋めてゆく、現実と記憶の肖像画。コロナ禍が影を落とす異国の街に、9年前の光景が重なり合う。祈りをこめて描く鎮魂の物語。 【第165回芥川賞受賞】	
小説8050 <small>はちまるごまる</small>	林 真理子	新潮社（2021.4）	397p / 19行×42文字程度
		従順な妻と優秀な娘にめぐまれ、完璧な人生を送っているように見える大澤正樹には秘密がある。有名中学に合格し医師を目指していたはずの長男の翔太が、7年間も部屋に引きこもったままなのだ。「引きこもり100万人時代」を背景にした、絶望と再生の物語。	
天路	リービ 英雄	講談社（2021.8）	189p / 16行×40文字程度
		アメリカを捨て日本に移り住んだ作家は、故国に残した母の死を抱えて中国の最果て、チベット高原へと赴く。一千年の祈りの地でたどる、死と再生の旅。国と国、言葉と言葉の「間」を旅する作家がたどりついた、世界の臨界点。記憶と言葉が響きあう越境文学。 【第74回野間文芸賞受賞】	
夏物語	川上 未映子	文藝春秋（2019.7）	545p / 19行×43文字程度
		大阪の下町に生まれ育ち、小説家を目指し上京した夏子。38歳になる彼女には、ひそやかな願いが芽生えつつあった。「自分の子どもに会いたい」…。生命の意味をめぐる真摯な問いを、切ない詩情と泣き笑いの極上の筆致で描いた物語。 【第73回毎日出版文化賞文学・芸術部門受賞】	
星落ちて、なお	澤田 瞳子	文藝春秋（2021.5）	321p / 18行×43文字程度
		鬼才・河鍋暁斎を父に持つ娘・暁翠の数奇な人生とは。父の影に翻弄され、激動の時代を生き抜いた女絵師の一代記。絵師、河鍋暁斎が死んだ。彼の死によって、河鍋家の中で辛うじて保たれていた均衡が崩れた。一門の行末はとよの双肩にかかっているのだった。 【第165回直木賞受賞】	

※上記内容説明は「トーハンマーク」から引用

- ・1タイトルにつき20冊所蔵しています。
- ・申込先：埼玉県立熊谷図書館 図書館協力担当

TEL：048-523-6291（代表）
 FAX：048-525-2667（図書館協力担当直通）